

伊丹福音ルーテル教会 主の洗礼主日礼拝のしおり

2022年1月9日

前奏

招きのことば：詩編30編2-4, 12-13節

主よ、あなたをあがめます。

あなたは敵を喜ばせることなく わたしを引き上げてくださいました。

わたしの神、主よ、叫び求めるわたしを あなたは癒してくださいました。

主よ、あなたはわたしの魂を陰府から引き上げ 墓穴に下ることを免れさせ

わたしに命を得させてくださいました。/

あなたはわたしの嘆きを踊りに変え 粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。

わたしの魂があなたをほめ歌い 沈黙することのないようにしてくださいました。

わたしの神、主よ とこしえにあなたに感謝をささげます。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは洗礼によってイエス様とひとつにさせていただきます。罪を悔い改め、イエス様の赦しにあずかります。また、聖餐の恵みによってイエス様はご自身を私たちにお与えくださいます。新しい一週間を歩みます。神様からいただきたいのちをもって、よろこんで神様と人々に役立って歩む一週間としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：使徒言行録 8 章 14-17 節

エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

福音書朗読：ルカによる福音書 3 章 15-17, 21-22 節

民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」
・・・民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

讃美歌 168 番

1. イエス君の御名に まさる名はなし 御神のみ心 世にあらわせり
※わが君イエスよと 喜びうたう 尊き御名こそ たぐいもなけれ

2・いとたかき神の み子にいませど 世を救うゆえに イエスとは 呼びぬ ※

3. 救いの十字架に かかげし御名を よろずのくにたみ 今なお愛す ※

4. 父なるみ神の 右にのぼりて み代しらすイエスの みいつかしこし ※ アーメン

説教：「あなたはわたしの愛する子」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様の誕生をお祝いしたクリスマスの少し前から、復活のお祝いをするイースターを経て、春のおわりの聖霊降臨日、ペンテコステまでの半年間はイエス様のご生涯を覚えます。イエス様は遠く東の国の博士たちの来訪を受け、その後、ヘロデ王の災いを避けてエジプトに滞在し、そしてナザレトと言う小さな村で家族のもとで育ちました。毎年のようにエルサレムのお祭りに家族ぐるみで参加されました。ついに三十歳くらいになられて、公けの働きに立たれました。ときあたかも、バプテスマのヨハネが自分の次に来る方こそ救い主である、と多くの人に宣べ伝え、罪の赦しを得させるための悔い改めの洗礼をヨルダン川で人々に授けていました。

私たち人間は神様を求めているようで、神様ご自身を求めているのではないのでしょうか。神様のような存在を自分でつくりあげること、表面上は神様を求めているかに見え、実際は巧妙にまことの神様を避けていませんか。罪というと、人に対する悪い言葉や行い、悪い思いを思い浮かべますが、実はまことの神様から離れ、自分を守ることが罪の本質です。神様の愛から離れているため、人への愛が枯渇します。謙遜に見えて自分が中心に座り、神様に対して鉄壁の守りをして自分の生き方を変えない私たちに、神様は救い主イエス様を送ってくださいました。そして素晴らしいことに、どこまでも自分中心な私たちを作り変えてくださいます。

旧約聖書の時代には預言者が神様の言葉を語りました。人々の信仰が曲がってくると、預言者が警告し、修正しました。それから四百年、預言者はとだえ、自分の判断で生きて、確信のないまま、たぶん大丈夫だ、と思っていたのです。そこに最後の預言者バプテスマのヨハネがあらわれ、二つのことをしました。ひとつは、人々にそのままではいけない、罪の赦しをいただくために悔い改めて洗礼を受けなさい、と言いました。そして更に、悔い改めにふさわしい実を結びなさい、と力強く語りました。多くの方が悔い改めて洗礼を受けました。

世の中には、自分を超えた大きなお方が自分の人生を導いてくださっている、と漠然と考えている人が割合多くおられます。そう思いませんか。我力でがむしゃらに生きる人は人への配慮のないみっともないひとだと思われまます。悪いことはできない、ちゃんとみられている、しんどくても行ったよいことがあとで報いられて、やっぱりちゃんとみられている、と感じたりします。互いに挨拶をするときも、おかげさまで何とかやっています、といいます。何かのおかげで最悪の絶望的な事態にはなっていない、という意味でしょうか。悪いことが起こっても、

これは誰かが私を鍛えてくださっているのだから、問題を人のせいにせず自らの責任として引き受けて乗り越えていこう、と歩むとき、思いがけない妙案がでたり、よい出会いがあったりして、不思議に道が開かれたりするものです。このように自分の思いの中で都合よく形作った信仰のようなものを、巷では深い宗教体験のようにして言われることが多いと思います。

当時のイスラエルの人々も似ていたかもしれません。自分たちは伝統的に神様に選ばれた民だから、律法を守ってきちんと生きていくと、神様は助けてくれるだろう、と感じていました。イスラエルの人々は、私たちの先祖はアブラハムだから大丈夫だ、とっていました。自分の知らないところで、誰かのおかげがあって守られてきたのだ、という思いです。私たちが経験する厳しい試練や苦しみの中で、神様はとてもおおらかな心で見守り、私たちが問題を乗り越えて成長することを遠くから励ましてくださっている、と思いたいのは人情でしょう。

しかし、バプテスマのヨハネはそれは自分の思いの中で形作った都合のよい信仰だと言います。神様は私たち人間の宗教心の投影ではありません。もしかしたらそうだったらいのに、という願いを形にした神様ではないのか、と問います。人がひとりよがり思い描く曖昧な神様はまことの神様ではありません。ですから、人は品性により実を实らせることはありません。私たちが人を警戒します。自分が安心できる人しか大切にできません。人生に確信がありません。そうであつたらいいのに、という願望であつて、たしかにそうだ、という確信がありません。

バプテスマのヨハネは、そのような信仰を漠然ともっていると、まことの神様と出会うことはないかと警告します。願望でも神様なるものを信じていたら、そしてある程度の安心があるのならいいのではないかと、思っていた人々に語ります。私たちは都合よく自分の心に蓋をして、心の中に手作りの神様を据えます。それでまことの神様に出会うことができません。そのような態度こそが、神様を拒む罪です。私たちは自分の力でそこから脱することができません。

バプテスマのヨハネは、人々が自分の姿に気づくようにしました。そのような生ぬるい、漠然とした、根拠のない甘い安心を持っていて、まことの神様を求めず自分を手作りの信仰で守ろうとする罪によって、人生により実を实らせることができない姿を見ることができるようになりました。その罪は自分で治せません。それで人々に、自分ではなく神様に向き直つて洗礼を受け、罪の赦しを受けるようにと勧めました。また、洗礼を受けて罪を赦されて神の子となったのなら、悔い改めにふさわしい実を結ぶようになりなさい、と強く励ましていました。

人々はバプテスマのヨハネが、待ち望んでいたメシア、救い主だろうか、としました。しかしヨハネは、自分ではない、自分のあとから来る方は私よりも優れている、とイエス様を紹介しました。私は水で洗礼を授けるが、イエス様は聖霊と火で洗礼を授ける方だ、と続けます。自分は外側からしか人を洗えないが、イエス様は心の中まで入ってください。穀物を脱穀したら、地面に麦や殻が散らばります。人は箕というちりとりを大きくしたような器具をもって脱穀場の隅々まできれいにし、麦を集めて蔵に入れ、殻は火で焼き払います。同じようにイ

イエスは私たちの心の罪を見分けて、人の目には見せていない、もしかしたら自分でも気づいていなかったような自分をだめにしてきた自己中心な思いを明らかにしてくださいませ。

イエスはバプテスマのヨハネから洗礼を受けました。イエスは罪のないお方なのに、悔い改めの洗礼をお受けになるとは不思議ですね。しかしそれは、洗礼の中にご自分をおいてくださったということでした。私たちが洗礼を受けるとき、洗礼の中にご自分をおいてくださったイエス様にあずかることができるためです。

イスラエルの人々は自分で神様のようなものを作って、安心と力を得ようとするので、かえって真の神様からの招きを跳ね返して拒否していました。バプテスマのヨハネの訴えを聞いて自己中心に気づいた人々は悔い改めて洗礼を受けました。イエス様も同じようになられました。ご自分は救い主ですから罪をおかしていませんが、そのようにして人々の罪を引き受けてくださいました。イエス様はやがて人々の罪をご自分の身に引き受けて、十字架で正しい神様の裁きを身代わりに受けつくりしてくださいました。私たちがイエス様を信じて洗礼を受けるとき、このイエス様の罪の赦しにあずかります。私たちは罪深く、あの手この手で神様と私たちの間に壁をつくって自分を守ります。洗礼はイエス様が私たちの壁を破り、壁を越えて、かたくななのにあやふやな私たちに罪の赦しをもたらす道筋です。自分で願望の神様をつくらなくてもよいのです。よき実を結ぶようになるのです。私たちの受ける洗礼は、ヨハネから洗礼を受けて洗礼の中に身をおいてくださったイエス様と一つになることです。イエス様から罪の赦しとあたたかいのちをいただき、神の子どもとされることです。

イエス様が洗礼を受けた時、天が開け、声が聞こえました。神様が語ります。洗礼によって私たちは神様の御声を聴く神様の子どもになります。今はみ言葉を通して、神様は私たちに語ります。神の子となり、天が開いたら神様の声を聴く楽しみと喜びで満たされるのです。

そのとき聖霊が鳩のように目に見える姿でイエス様の上から下ってきたと書いています。聖霊は目に見えません。しかしそのとき目に見える姿で鳩のようにイエス様の上から下りました。聖霊はみ言葉や洗礼、聖餐式を具体的に用いて私たちにイエス様に信頼する信仰をつくります。天からの声は「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者」という父なる神様のイエス様への言葉でした。洗礼によって、私たちはこの父なる神様のこのことばを私へのことばとして受けます。父なる神様がイエス様によって私たちを、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者」と言ってくださいませ。この確信をもって私たちは、生活のよい実を結びます。

これまで自分のつくった神様で心を満たし、真の神様の声を跳ね返し、避けていました。イエス様は洗礼によって私たちにご自分を与えてくださいませ。火のような裁きをご自分が受けて、私たちに赦しといのちを与え、私たちを神の子どもとします。洗礼にとどまりましょう。イエス様をお送りくださった神様の真実の愛を味わい、託された使命を生きがいにも歩みましょう。

聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。ルカ 3:22

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン
だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讚美歌 191 番 献金 献金感謝の祈り

1. いともとうとき 主はくだりて 血のあたひもて 民をすくい
きよき住居(すまい)を つくりたてて そのいしずえと なりたまえり
2. 四方(よも)のくにより えらばるれど 望みもひとつ わざもひとつ
ひとつのみかて とともに受けて ひとりの神を おがみたのむ
3. 数多(さわ)のあらいみ 民をさき 世人(よびと)そしりて 悩むれども
神はたえざる 祈りをきき 涙にかえて 歌をたまわん
4. 世にのこる民 去りし民と とともにまじわり 神をあおぎ
とわのやすきを 待ちのぞみて 君の来ますを せつに祈る アーメン

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏